

元号決定



新元号が2019年4月1日午前11時40分頃
菅官房長官から発表された。

大化からはじまり“248”番目の元号は「令和」。

奈良時代に大伴旅人が編纂(へんさん)したとされる現存する
最古の歌集「万葉集」第五卷・梅花の歌の「序」(下記)から
この二文字が典拠された(引用箇所根拠・確かなより所)。
元号に「令」の字が使われるのは初めてらしい。

施行は5月1日からで国民の混乱を考え公文書等に平成と
書き間違えてもしばらくは訂正無しで通用させるとの事
でたいへん英断(良い決断)であるとおもう。

引用された梅の花の序文の解説

れいげつ きよ かぜやわら きょうぜん こ ひら
「初春の令月にして 気淑く風和ぎ 梅は鏡前の粉を披き
らん はいご こう か
蘭は 珮後の香を薫らす」

現代語の訳

厳しく寒い時を経て新春の良い気候となり空気は美しく
かぜはやさしくさわやかに吹いている。梅は美女が鏡の前で
お白粉で装う如く白く咲き、蘭は貴人が身につける香のかおりを
ただよわせている。

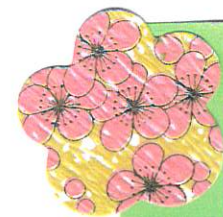
大伴旅人とは

生・天智(てんじ)4年(665)～ 没・天平3年(731) 奈良時代の 政治家・歌人。

大納言であった安麻呂の長男。728年頃 太宰師(だざいのそち)に任じられ
筑紫の地に居。天平2年 大納言に昇進して後帰京するまで山上憶良ら

と交遊し筑紫歌壇の中心をなした。万葉集に自身の和歌80首入集。

同じく歌人として名高い大伴家持(三十六歌仙の一人)の父。



初春令月 気淑風和
梅披鏡前之粉 蘭薫珮後之香

この平成も残すところ1ヶ月足らず。新元号発表されてから巷の評判は
おおむね好評の様だ。この元号の意の如く世界がおだやかに心安らげる
年月になることを切に願うばかりである。

